No. 2

社会開発協力部報告書

イラン国
イラン・ヤズド信号訓練センター
プロジェクト
巡回指導調査団報告書

平成7年8月

JICA LIBRARY
J 1123568 [6]

国際協力事業団

JICA
104
146
CS
LIBRARY

社 協 二
J R
95 - 014

イラン国
イラン・ヤズド信号訓練センター
プロジェクト
巡回指導調査団報告書

平成7年8月

国際協力事業団

1123568 [6]

序　文

イランの主要都市は内陸にあり、海岸線にある港湾から遠く隔たっている。しかしこの間の物流は大量で、その輸送は鉄道に大きく存在している。イラン国有鉄道（ＩＩＲＲ）がこれら輸送の管理・運営にあたっているが、その安全性・正確さ・迅速さの面で大きな課題を抱えている。このためＩＩＲＲは職員の技術向上を通して鉄道輸送のレベルアップを図るため各種専門教育の実施を計画し、このうちヤズド市で行われるヤズド信号訓練センター（ＹＳＴＣ）に対する技術協力をわが国に要請してきた。

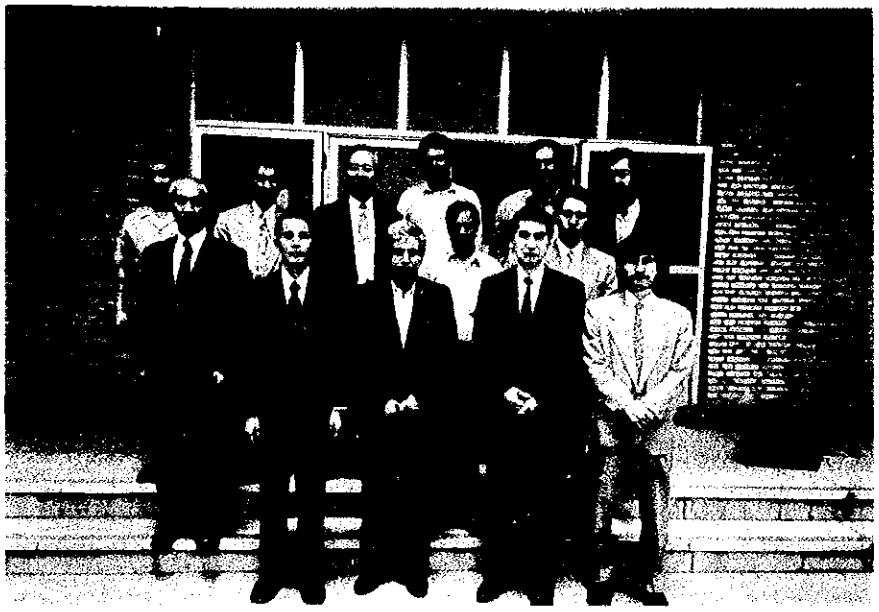
これを受け1993年12月、日本とイランの間に討議議事録（Ｒ／Ｄ）の署名が交わされ、３年間にわたるプロジェクト方式技術協力が開始された。

今般、プロジェクトが協力期間の中間点に達したので、その進捗状況、特に1995年（平成７年）10月に開講が予定されているＹＳＴＣでの訓練コースへの取り組みぶりを調査・確認するとともに、今後の活動計画について指導・助言を行うため、運輸省鉄道局保安車両課台木一成補佐官を団長とする巡回指導調査団が、1995年（平成７年）７月８日から13日までイランに派遣された。調査の結果、プロジェクトは過去１年間に相当の進捗を見せているが、間近に迫った訓練コースを円滑に実施するには解決すべき課題があることも判明した。

以下の報告書は、同調査団の調査結果を取りまとめたものである。ここに調査の任に当たられた団員の方々、ご協力いただいた外務省、運輸省、東海旅客鉄道㈱など、関係方面各位に厚く御礼申し上げるとともに、今後のさらなるご支援をお願いする次第である。

平成７年８月

国際協力事業団
社会開発協力部部長　後藤　　洋



ヤズド信号訓練センター前

右前段から

末富団員

台木団長

Mr. キャリミC／P

戸石団員

右中段

中島書記官

左中段

矢口リーダー

左上段から

・青木調査員

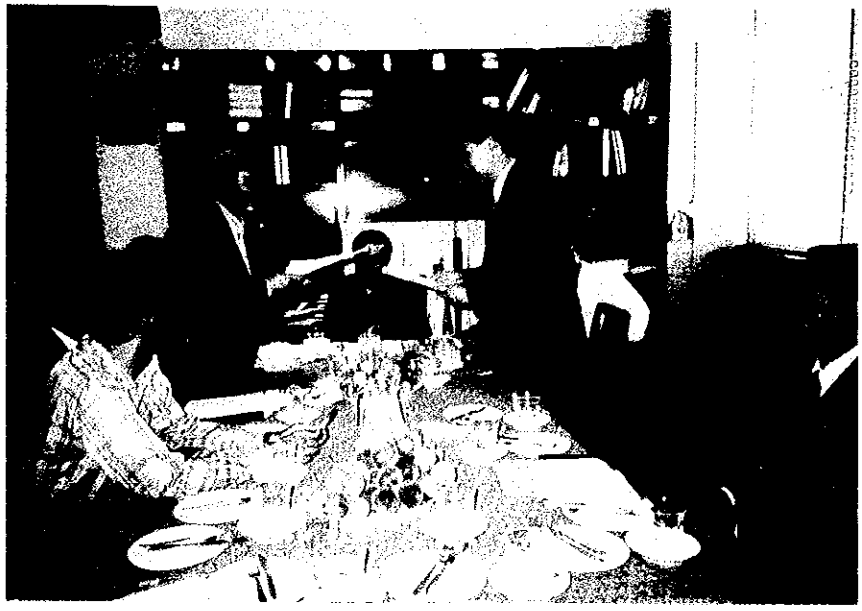
・上枝団員

・矢沢専門家

ヤズド信号訓練センター

実習室供与機材

設置状況



ミニッツ交換

（国鉄副総裁と台木団長）

協議風景

目　次

序　文
写　真

1. 巡回指導調査団派遣 …… 1
　1－1　調査団派遣の経緯と目的 …… 1
　1－2　調査団の構成 …… 2
　1－3　調査日程 …… 2
　1－4　主要面談者 …… 3

2. 要　約 …… 4
　2－1　進捗状況の概要 …… 4
　2－2　イラン国鉄との協議の概要 …… 4

3. プロジェクト実施上の諸問題 …… 5
　3－1　プロジェクトの進捗状況 …… 5
　3－2　問題と対策 …… 6
　3－3　その他の問題 …… 9

4. ヤズド信号訓練センター機材設置等現況 …… 12
　4－1　供与機材の通関及び運送条件 …… 12
　4－2　供与機材の設置状況について …… 12
　4－3　機器設置環境について …… 13
　4－4　その他の設備 …… 13

附属資料
　①　ミニッツ …… 19

1. 巡回指導調査団派遣

1－1 調査団派遣の経緯と目的

イラン国政府は鉄道の安全生と効率化を計るためヤズド信号訓練センターにおいて信号要員を育成することを計画し、日本に技術協力を要請してきた。これに対し、わが国は1991年（平成３年）10月に事前調査団を派遣して、イラン国における信号通信設備の状況及びわが国としての協力の可能性の調査を行った。

さらに1992年（平成４年）11月には協力の内容及び先方の実施・運営体制を調査・確認することを目的に長期調査員を派遣した。

これらの調査結果を踏まえて、1993年（平成５年）２月に実施協議調査団を派遣したが、協力内容につき合意に至らず、R／D署名は保留となった。

その後、外交ルートをとおしてイラン側と交渉を継続した結果、協力内容につき双方合意し、同1993年（平成５年）12月にR／D署名を交わし、３ヵ年の協力を開始した。

1994年（平成６年）６月計画調査団を派遣し、プロジェクトの実施状況を調査するとともに、協力活動計画、双方の投入計画等につき、イラン側と協議を行った。

今般、プロジェクトが協力期間の中間点に達したので巡回指導調査団を派遣し、プロジェクトの進捗状況等を調査・確認するとともに、今後の協力活動計画につき指導・助言を行うこととなった。

1－2　調査団の構成

	氏　　名	担　　当	所　　属
(1)	台　木　一　成	総括・訓練計画	運輸省鉄道局保安車両課　補佐官
(2)	未　富　裕　二	鉄　道　行　政	運輸省鉄道局総務課　調査員
(3)	戸　石　裕　威	信　号　設　備	東海旅客鉄道株式会社　建設工事部 電気工事課　担当課長
(4)	上　枝　弘　幸	協　力　企　画	ＪＩＣＡ　社会開発協力部 社会開発協力第２課　課員

1－3　調査日程

平成７年７月８日～20日　　13日間

日順	月日	曜日	移　動　及　び　業　務
1	7. 8	土	12:00 東京発－NH209 移動 17:05 ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ 着
2	7. 9	日	18:00 ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ 発－LH600 移動
3	7.10	月	1:40 ﾃﾍﾗﾝ　着 専門家打合せ、大使館表敬、ﾃﾍﾗﾝ中央ｾﾝﾀｰ・ｲﾗﾝ国鉄表敬及び 協議
4	7.11	火	ｲﾗﾝ 国鉄協議
5	7.12	水	10:00 ﾃﾍﾗﾝ発－IR292 移動 11:10 ﾔｽﾄﾞ 着　ﾔｽﾄﾞ 訓練ｾﾝﾀｰ視察
6	7.13	木	14:40 ﾔｽﾄﾞ 発－IR299 移動、 15:50 ﾃﾍﾗﾝ着
7	7.14	金	鉄道施設調査
8	7.15	土	ｲﾗﾝ 国鉄協議
9	7.16	日	合同委員会　ミニッツ協議
10	7.17	月	ミニッツ署名、大使館報告
11	7.18	火	6:30 ﾃﾍﾗﾝ発－IR735 移動 11:30 ﾊﾟﾘ着
12	7.19	水	20:15 ﾊﾟﾘ着－JR406 移動
13	7.20	木	14:55 東京着

1－4　主要面談者

（イラン側）

イラン国鉄（Iranian Islamic Republic Railways : IIRR）

Mr. H. Meharzma　: Deputy Managing Directer

Mr. M. Dadyer　: Assistant Deputy Managing Directer

Mr. H. Shapouri　: Directer General, Tehran Training Bureau (TTB)

Mr. M. Veyseh　: Directer General, Communication & Signaling Bureau

Mr. H. Talebl　: Deputy Directer General TTB

Mr. A. Karimi　: Coordinater of YSTC Project TTB

（日本側）

在イラン日本大使館

正木　靖　：一等書記官

中尾　純二　：二等書記官

金沢　裕勝　：二等書記官

イラン・ヤズド信号訓練センタープロジェクト専門家

矢口　芳昭　：チーフアドバイザー及び信号技術

矢沢　勝　：信号保守

青木　桂城　：業務調整員

2. 要　約

2－1　進捗状況の概要

ヤズド信号訓練センター・プロジェクトは過去1年間に相当な進捗を見せ、その姿を現してきたところである。建物内への機材の設置も始まった。

本件プロジェクトの今後の重要なマイル・ストーンは1995年10月に予定されている訓練コースの開講である。その準備状況をみると1994年7月にイランを訪問した計画打合せ調査団がイラン国鉄と合意した実施計画から遅れている分野があるが、双方がよく協力すればこのマイル・ストーンの達成は可能であると考えられる。

1994年2月に派遣された長期専門家3名のうち信号技術を担当する2名が健康等の理由で帰国したため、1995年6、7月に後任の長期専門家2名が派遣された。

訓練コース開講までに行うべき内容は、教科書の準備とヤズドの実習教材の準備が中心となる。いずれも1995年7月までにはほぼ完了すべく計画されていたものであるが、イラン側及び日本側の努力にもかかわらず、1995年7月の巡回指導調査団のイラン訪問時には未完であった。これらの作業は決して軽微なものとはいえず、新たに派遣された長期専門家2名のイランでの生活の立上がりに時日を要すると見込まれるところから、継続滞在の長期専門家1名の貢献は期待できるが、1995年10月の開講の実現するにはイランにおける精力的活動が必要と考えられる。

訓練コース開講予定月日については、協議の結果、1995年10月21日とすることで合意した。

2－2　イラン国鉄との協議の概要

イラン国鉄との協議は、イラン側代表者をアフシャル国鉄総裁から本件プロジェクトの実施に関して権限を委任されているメハラズマ副総裁（人事・訓練担当）とし、技術的内容についてはダディアール副総裁補佐官及びシャプーリ研修局長を相手に行った上で、副総裁の確認を得る形式で行われた。

その内容は、プロジェクトの目的を再確認するとともに、R／Dに規定された合同委員会を開催して計画打合せ調査団がイランを訪問した1994年7月以来のプロジェクト実施内容と進捗状況を双方で確認することであった。

将来1年間の実施計画については、昨年作成された全期間にわたる計画を基本とすることとした。

3. プロジェクト実施上の諸問題

3－1 プロジェクトの進捗状況

(1) 供与機材

1993年度供与機材は1994年8月17日にイランのバンダル・アッバス港に到着し、同年10月18日に通関終了してヤズドに輸送されたが、訓練センターの機材室の準備が整わなかったため据付は1995年4月となった。（計画では1994年9～10月に据付が予定されていた。）

1994年度供与機材は1995年4月29日にバンダル・アッバス港に到着し、同年7月15日に通関を終了してヤドズに向け発送されたところである。（計画は1995年4～5月にヤズド訓練センターへの据付が予定されていた。また両年度機材は組合わせて作動することから6～7月に据付機材の調整と取扱教育が予定されていた。）

(2) ヤズド訓練センター施設

本社の指示を受けたイラン国鉄南東局の努力により供与機材を設置する実習生は、空調設備が未完成である点を除いてよく整備された状態である。室内照明設備、防塵用二重窓等も日本側の指摘どおり整備された。1993年度供与機材が主として日本側長期・短期専門家とイラン側カウンターパート（以下C／Pで表現）により設置された。

日本側専門家のための事務室等はよく整備された。

(3) 教科書

訓練センターでイラン側のC／Pが教師となって行う訓練コースで用いる教科書（ペルシャ語版）で完成しているものはない。

基礎技術については1994年7～8月の教育後にC／Pにより作成され、また上級技術については1994年11月～1995年3月の教育中に各科目順次にC／Pにより作成される予定であった。

日本側から提供された教科書（英語版）は分量が多く、（JRグループのシステムを念頭に置いた記述であり、イラン国鉄の現状よりも先進的な内容も一部含まれていたが、基本的な作動原理等については万国共通のものである。）C／Pの理解度向上に大いに役立つとイラン国鉄側は評価しているものの、イラン側によるペルシャ語への翻訳に時間がかかり、開講する訓練コースの期間に比して分量が多く不均衡であるため、訓練コース用教科書として再編集の必要が認められる。

(4) 開講計画

イラン側は研究局から信号通信局に対して研修生の推薦依頼を行った。

(5) イラン側C／Pに対する教育

1994年2月に長期専門家3名がテヘランに駐在し、その内信号技術の専門家2名が予定どおり1994年7～8月の時期に基礎技術の教育を行った。しかし、用いるべき英語版教材がC／P教育の時点ではまだ整備が終わっていなかったこと、信号技術専門家1名が1994年秋頃から健

康を害したこと等により意志疎通が不十分な面もあったかと推定される。

一方で上級技術については、1994年11～12月の時期に短期専門家２名、1995年２～６月の時期に短期専門家２名がテヘランに派遣され、各科目についてＣ／Ｐの教育を行った。また長期専門家も一部の科目（運動装置）についてＣ／Ｐの教育を行った。

予定されたが行われていない科目（スイッチ・マシン）がある一方で、イラン側の要望を受けて追加科目（ＰＲＣ：自動進路制御装置）の教育が行われた。

イラン国鉄（研修局長）によればＣ／Ｐの到達度がまだ十分とは言えないが、短期専門家の教育は効果的な技術移転と高く評価されている。

(6) イラン側Ｃ／Ｐの日本での研修

1994年10～11月にイラン国鉄副総裁及びイラン側Ｃ／Ｐ１名が来日して研修を受けた。この時期に２名のＣ／Ｐが日本で研修を受ける計画のとおりである。副総裁はＣ／Ｐではないが本件プロジェクトの実施に関するイラン国鉄の責任者である。

３－２　問題と対策

(1) 供与機材

1993年度供与機材については、イラン税関に関税を支払わずにイラン国鉄が受領することが法的に可能であった。しかし、イラン国鉄がこの手続きに不慣れであったこと、機材に付された書類に細かい点で誤記があったこと等により、長期専門家等バンダル・アッバス税関に出向く等の努力をしたが、通関に約３ヶ月を要した。

その後イラン国内法の改正により1994年度分から供与機材に関税がかかることとなったが、イラン国鉄は迅速に必要な予算措置を行った。しかし通関手続きは遅れ、イラン国鉄によれば、イラン商業省からバンダル・アッバス税関に対する通関促進の書面をとって国鉄担当者が税関に出向く等の努力をした。これにより約2.５ヶ月を要したが本調査団がイラン滞在中に通関が完了した。

1994年度供与機材の据付は計画の1995年４～５月から約３～４ヶ月遅れの８月頃となる見込みである。1993年度供与機材と合わせた機器調整やＣ／Ｐへの取扱教育を行う必要があるが、具体的な実施時期は、教科書作成作業等と調整する必要があるため、本調査団のイラン滞在中には決めるに至らなかった。

1996年１月頃到着する1995年度供与機材についても同様の予算措置をイラン国鉄に要請したところ、特に問題がないとの回答を得た。なお、イラン国鉄側の手続き円滑化のため、イラン側の要請により機材価格、内容等の詳細情報を早期に通知することとした。

供与機材の仕様について、イラン国鉄側の要望が考慮されなかった点が一部あったとの先方の見解に対しては、日本側としての予算の範囲で全般的にイラン側の仕様に係る要望を極力反

映した仕様となっている旨説明し、両者で現行仕様の供与機材を最大限活用することが重要である点で合意した。

(2) ヤズド訓練センター施設

実習機材室の防熱、防塵対策に今後とも注意を要する旨本調査団からイラン国鉄側（本社及び南東局）に伝えた。イラン側は同室を土足禁止による等日本側の要望に応じることが可能と述べた。

実習機材室の空調設備については、整備するとの回答を得た（南東局長）。

日本における信号実習機材室の環境設備の仕様の運用方式について参考資料を入手したいとの要望がイラン側から出され、日本側から後日送付することとした。

(3) 教科書

英語版教材を充実させるため長期専門家の依頼に応じて日本で日本語版教材の英語翻訳を行い1994年10月～1995年７月にイラン側にＡ４サイズで約1650ページ分を提供した。

本件調査時点では小冊子１種類のペルシャ語版が完成している。イラン側は優秀な翻訳者を既に手配し、調査団訪問以前に提供済みの約 800ページについては翻訳すると意思表示し、その他部分についても見込みはあると述べた。イラン側に求めた翻訳の優先順位については、今後の訓練コース用教科書の作成と関連するため長期専門家が検討し、合同委員会の下に小委員会を設けて、そこで作業することで合意した。

日本語版教材に含まれる英語版では提供されていないとのイラン側指摘については何らかの形で図表を提供することとした。（後日送付済。）

しかし日本側が提供した教材をイラン国鉄の訓練コースの期間や水準に合うよう編集し直す必要がある点で合意した。

ペルシャ語版教科書の作成はイラン側の担当となっているが作業が遅れているため、イラン側で小委員会で作業を促進し、長期専門家もこれにできるだけ協力することとした。

(4) 開講計画

イラン側の希望どおり座学をテヘラン、実習をヤズドで実施することを確認した。

開講期日は基礎コースについて1995年10月21日（土）とすることで合意した。10月は学校の新学期の月であり子弟の入学手続等が行われる前半を避け、かつ、イスラム暦で西欧の月曜日に相当する土曜日を選んだものである。上級各コースについてはその後順次開講の予定である。

開講に向けて優先すべき活動として、まず、第一に講義用テキストの作成を進め、第二番目に供与機材に関する作業（設置、試験、使用法指導等）を行うことを関係者間を了解した。

訓練コースの目的が本件プロジェクトに整合することを再確認し、また内容については今後長期専門家の意見も取り入れられる予定である。

基礎コースの受講予定者は当初計画では国鉄の新規採用者を考えていたが、イラン国鉄は多くの新幹線建設計画を有する反面で定員削減が行われており、新規採用を行っていないため、

1995年10月の基礎コースは経験4年程度の職員が対象となる。

（注）R／D署名時のMinotes のAnnex Ⅰ で基礎コース対象資格に「オリエンテーション済み」とあるのをイラン国鉄は経験保持者と解釈したいとしている。

(5) イラン側C／Pに対する教育

イラン国鉄側ではC／Pに対する技術移転が不十分との認識がある。今後の対処としては、C／P側からの質問については長期専門家が能力の範囲で回答する、未実施で訓練コース開講までに実施予定の講義については長期専門家が行うこととした。

また、講義について実習が欠けており、合意文書に用いられている「マスターする」水準にC／Pが到達していないとのイラン側指摘については、ヤズドに設置される実習機器で対応できる範囲については、C／Pの理解度向上のため長期専門家が実習教育を行うこととした。

また、イラン側はR／DのAnnex Ⅰ の2.にある「訓練方法」に係る技術移転に関し、短期専門家による「訓練方法」の講義を要望した。

(6) イラン側C／Pの日本での研修

イラン側は昨年の合意に基づいて10名の日本研修を要望したが、日本側はこの人数はC／Pの可能な最大人数に対応するものであり、その後C／Pは6名となったのでこの範囲で日本研修を検討している旨回答した。

また、イラン側はC／P以外の管理職級の日本での研修を要望した。これについては国鉄副総裁以上のプロジェクト関係者はＪＩＣＡの認定を受ければ可能だが、日本側の研修予算はC／Pと同じ枠内となる旨回答した。イラン側はより低い管理職の日本研修を要望したので、日本側は要望は留意するが実現は困難と回答した。

C／Pのために日本側から集団研修コースへの受入れを提示したところ、イラン側から既成のコースはイラン側から見ると満足すべき水準でなく、C／Pの日本研修はC／P全員が同時に、かつ、イランでの講義を補足する内容で行われることが望ましいとの意見が出された（副総裁補佐官）。日本側からはそのようなコースは実現困難であり、集団研修コースが実現可能な最良のものと回答した。

また、イラン側から集団研修コースの内容討議、問題解決のため管理職も同行受入れの要望があった。日本側からは、当該コースにおいては参加者はいつでも質問することが可能で回答も受けられること、文化の相違による生活上の困難については、日本側コース担当者が同行するのでいつでも相談が可能であることを説明した。また、管理職の受入れについては前述のとおり困難である旨回答した。

3－3　その他の問題

(1) 長期専門家の交代

本調査団派遣の直前に長期専門家が2名とも交代した。

富所幸徳専門家（鉄道信号保守、当初任期：1994年３月４日～1996年３月３日、日本信号㈱）は脳血栓のため1994年12月10日に倒れ、同年12月25日に帰国した。その間、休暇の扱いとして経過を見守ったが再赴任は困難と判断されたことから、任期を1995年３月６日までに短縮し、後任を派遣することとなった。後任の矢沢勝専門家（鉄道信号保守、日本信号㈱）は、1995年７月８日から１年間の任期で派遣されることになり、本調査団に同行してイランへ入国した。

リーダーである吉田博彦専門家（鉄道信号技術、当初任期：1994年３月４日～1996年３月３日、日本信号㈱）については、所属先の都合により任期を1994年６月28日までに短縮した。後任の矢口芳昭専門家（鉄道信号技術、日本信号㈱）は、1995年６月21日から１年間の予定で派遣されたばかりであり、本調査団派遣時は１ヶ月半程経った段階であった。

(2) 短期専門家

イラン側からはこれまで派遣された短期専門家についての謝辞が再三に渡り述べられた。また、短期専門家が持参した資料類について大変好評であり、引き続き短期専門家を派遣することに期待された。

短期専門家個々の能力が高かったこと、指導内容にＰＲＣなどの先進技術が含まれていたことなどが好評の原因と考えられる。

(3) 専門家派遣にかかる諸問題

1) 日本側専門家のためのテヘランの事務室はイラン国鉄テヘラン訓練センター内によく整備されていた。

2) 日本側専門家のためにイラン国鉄が提供すべき事務員は、事務処理能力において不十分な点はあるものの計画どおり配置された。

3) 日本側長期専門家に対する期間12ヶ月のビザの交付は実現されておらず、６ヶ月ビザのままである。イラン外務省の方針であるため実現の可能性は薄い。

4) 日本側長期専門家（家族を含む）に対するＩＤカードは、日本側の要請を受けてイラン国鉄が期間12ヶ月のものを交付した。ビザ更新時に３～７日間パスポートの提出を要するものの、ＩＤカードがあればイラン国内の移動に障害はない。

5) 日本側専門家がイランへ出発する前の在日イラン大使館によるビザ発行の手続きに要する期間は改善された。

6) 日本側からイランへ送付する貨物に付すべき在日イラン大使館の書類も発行手続きが確立された。

(4) 研修受講生のレベル

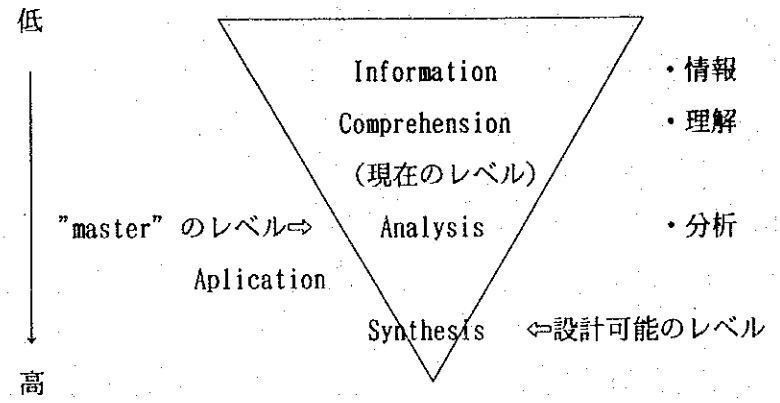
研修受講生のレベルは実務経験５年程度を想定していた。これは研修局が信号通信局に対して要望しているレベルである。実際に研修生を派遣する信号通信局がどの程度の職員を受講させるかは現時点ではわからない。

Ｒ／Ｄの頃は新任職員を対象とすることも想定していたが、現実にはここ数年新人職員は採

用していない。

(5) "master"の語義について

C／Pに対する技術移転に関係して前回調査団のMinuter ATTACHMENT 4 STAGE 4の "master" の語義について、イラン側は今まで行われている技術移転よりも高いレベルを考えており、下図のような図を用いて調査団に対し説明した。



また、実習の概念が日本側とイラン側に差があるようである。日本側は装置全体が操作に対してどの様に挙動するかを学ぶものと考えているのに対し、イラン側は個々の部分の作動原理を学ぶものと考えているようである。

(6) 月例会での議事録作成

長期専門家とイラン国鉄との月例会議は副総裁が毎回出席しており有効な意志疎通手段と考えられるが、今後は両者で確認した議事録を作成することとした。

本研究プロジェクトについて日本側と比較すると、イラン側には実績を文書で記録する傾向が強い。

(7) プロジェクト指摘についての考え方

イラン側では本件プロジェクトの主要成果をC／Pに対する日本側からの技術移転と考える傾向が強く感じられた。また、訓練コースの予定日数が短いにもかかわらず技術移転についてC／Pの到達水準への期待が高い（研修局長）。

日本側からは本件プロジェクトの目的を再確認し、訓練コースの内容や成果が重要なのであって、C／Pへの教育は1年はC／Pへの講義時間数は減る見込みであること、また、訓練コース担当に必要な知識等を越えて、各C／Pの専門性を最大限高めて担当分野を高度にマスターさせたいという意欲は理解できるが、これはプロジェクト目的を越えるものである旨説明した。本件プロジェクトについて、生産性、効率性が重要との点では両者合意した。

(8) 高級研究員問題

イラン国鉄副総裁の日本での研修について、イラン側から副総裁の訪日目的は視察であって研修ではないとの指摘があった。

C／Pの日本研修予算枠で招待したもの、また研修の語は高級幹部を対象とする場合もある等説明し、多少の修文で折り合った。

4. ヤズド信号訓練センター機材設置等現況

4－1 供与機材の通関及び輸送状況について

(1) 1993年度供与機材

1993年度供与機材（C駅継電連動装置等）は、1994年8月17日にバンダル・アッバスに入港し、10月18日に通関手続きを終え、1995年4月にヤズド訓練センターに設置された。（別紙1. 1993年度供与機材引き取り状況　参照）

(2) 1994年度供与機材

1994年度供与機材（A駅継電連動装置、ＣＴＣ装置、閉そく装置、信号機、軌道回路、模型等）は、1995年4月29日にバンダル・アッバスに入港したが、イランの税法改正（1995年3月21日付）により無償の供与品を国の機関が受け取る場合でも課税されることとなり、約2千万円の関税支払いが必要となった。

このため、イラン国鉄として新たな予算措置を行ったうえで納税を完了し、1995年7月15日通関手続きを終えた。

同年7月17日現在ヤズドに向け輸送中であり、到着次第設置を行う予定である。

(3) 1995年度供与機材

1995年度供与機材（各種試験機、測定器）については、1996年1月頃バンダル・アッバスに入港予定である。

調査団からイラン側に対して、通関に必要な関税の予算措置を早急に行なうよう申入れた。他方、イラン国鉄からは、円滑な通関手続きが出来るように、供与機材の金額等詳細情報を早めに知らせてほしいとの要請があったので、日本側から早期に情報提供する旨伝えた。

4－2 供与機材の設置状況について

ヤズド訓練センターの実習室には、ケーブルピットが掘られ、コンクリートの基礎ベースを作成済みであった。

1993年度供与機材は前述のように既に設置されているが、いずれもリレー、ユニット類の取付及びケーブルの布設は未了であった。

これは、次の理由による。

① 当初予定の機器レイアウトが変更になったため、搬入済みのケーブルでは長さが不足し手直しが必要となった。

② 1993年度供与機材のみではシステムとして完結しないため、1994年度供与機材の到着を待って同時システムを立ち上げる予定である。（別紙2. 実習室レイアウト　参照）

4－3　機器設置環境について

ヤズド訓練センターは砂漠地帯に位置しているため、信号用機器にとっては過酷な設置環境である。

特に、電子機器が苦手とする高温及びリレー、コネクタ類の大敵である砂埃への対策は必須条件となる。

高温に対しては、イラン国鉄側で既にエアーコンディショナを手配済みとのことなので、調査団から早期の設置を要望した。

砂埃に対しては、各機器の上に積もっている状況であることから、次の2点について助言を行なった。

① 実習室に取り付けてある多数の窓に対して、砂埃侵入対策を行なうこと。

② 実習室内を土足禁止とし、出入口からの砂埃侵入対策をすること。

その他、イラン側から次の回答を得た。

①に対しては、窓を2重化すると共に上部窓については、パッキングにらり密閉化する（一部施工中）

②に対しては、実習室内を土足禁止とし、入口で靴からスリッパに履きかえることとする。

4－4　その他の設備

(1) プロジェクト用事務室

プロジェクト用事務室については訓練センターの一階に確保され、机、イス、書庫等が搬入済みであり、電話、ＦＡＸは未接続であったが、事務室として使用可能な状態であった。

(2) 研修生用宿泊室

研修生用宿泊室は訓練センターの二階に準備されており、絨毯を敷いた室内に2段ベットを3組程置いた簡素な作りであった。

別紙1

93年度供与機材引き取り状況

1. 概　況

1994年10月16日－18日、国鉄研修局 YSTC PROJECT COORDINATOR のMR.KARIMI 氏に青木調整員が同行してバンダル・アッバス税関を訪問し、最終日に、国鉄が標記機材を引き取った。現地国鉄 HORMOSGAN局は、局長代理以下計4名が本件に全時間を投入し、短期に複雑な通関手続きを完了することができた。

なお、バンダル・アッバスの通関が極めて順調に行なわれたことなどのため、国鉄側は94年度の機材の揚げ地も同港にすることを研修局長／購買局長間で内定した。早急にその旨正式日側に要請する見込みなので、仕向地について暫時保留願いたい。

以下に引き取り状況の要点を記す。

2. 免税通関の許認可の書類の流れ

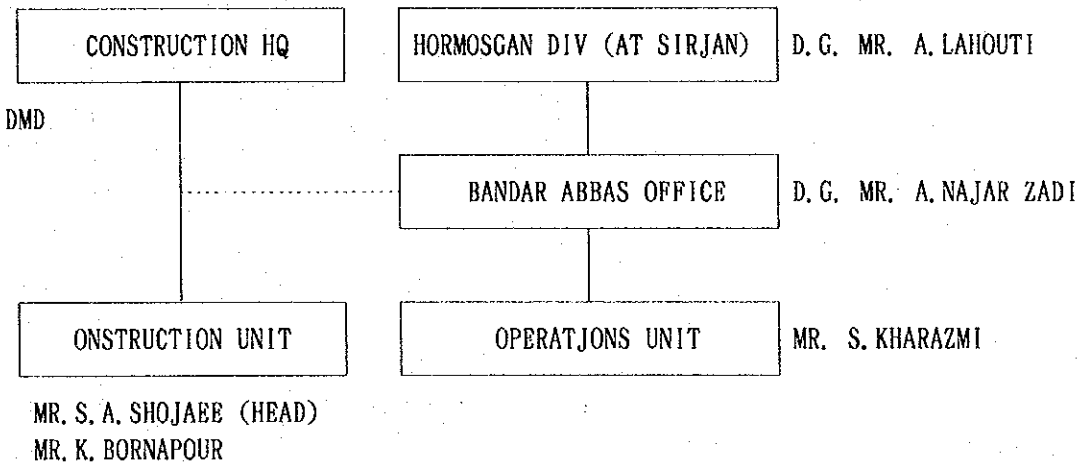
1) EMASSY OF IRAN IN TOKTO ⟶ CUSTOMS OFFICE OF IRAN
2) MINISTER OF ROAD & TRANSPORT⟷ MINISTER OF COMMERCE
3) ASIAN BUREAU, MINISTER OF FOREION APPAIRS ⟶ MINISTRY OF COMMERCE
4) VICE MINISTER OF COMMERCE ⟶ CUSTOMS OFFICE OF IRAN
5) MINISTER OF COMMERCE ⟶ D.G.IMPORT DEP. B/ABBAS CUSTOMS OFFICE
6) MINISTER OF COMMERCE ⟶ B/ABBAS CUSTOMS OFFICE

3. 通関業務の内容

1) 保管貨物の認定
2) 貨物の通関申告
3) 倉庫料・通関諸掛け支払
4) 混載コンテイナーからの貨物分離・引き出し
5) パッキングリストとの貨物の照合（EVALUATION）
6) 引き渡し

4. 国鉄バンダル・アッバス支局の業務

この支局はHORMOSGAN 局管内にあり、責任者は同局長代理の ALI NAJARZADI氏。業務は国鉄が輸入する資材の通関と配送、及び同地とSIRJAN間の新線建設工事である。通関業務は4－5名で行われており、これまでの8ヶ月間にインドからの強化鋼鉄線など 170件の通関実績がある。組織は下記の通りである。



5. 陸　送

国鉄研修局のシャウセイニー氏がヤズドに先行、国鉄のトラックを１台調達、これに添乗して10月17日朝６時発、バンダル・アッバスに同日18時30分到着した。翌19日10時、機材を積載して同所発、21日ヤズド研修センターに到着した。

6. 今後の作業と関連業務の見直し

1) 93年度機材の据え付け作業前に、パッキングリストと現物の照合を行なっておく必要がある。

2) 機材据え付けの時期は、94年度分と同時にすべきか否か、を日本人専門家チームとして判断する必要がある。

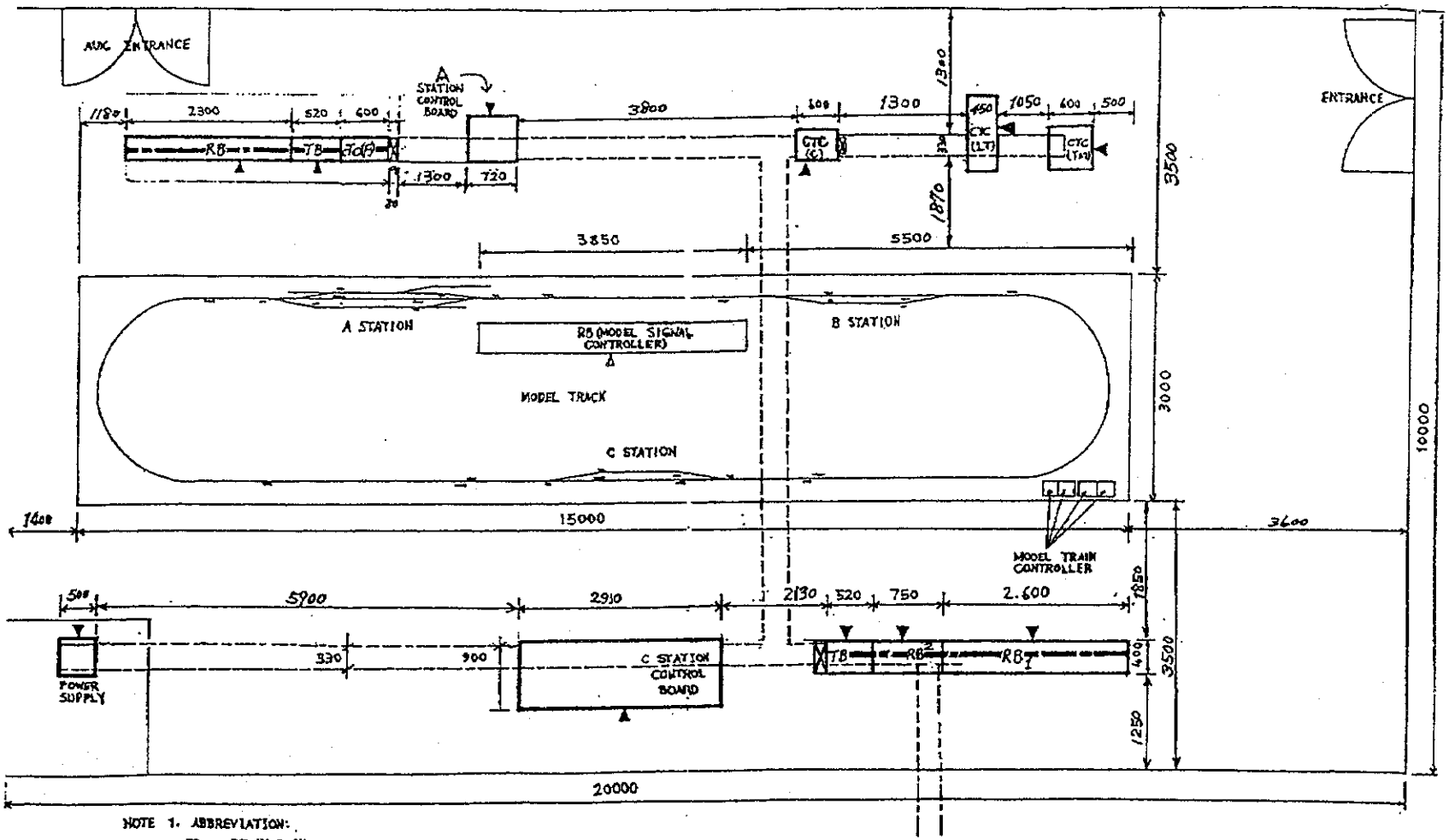
3) 94年度機材の揚げ地は７月の日イ合意によれば BANDAR IMMAM KHOMEINIであるが、下記の理由により引き続きバンダル・アッバス港を揚げ地としたい。

＊ 困難な事態を克服て93年度機材を円滑に通関した。

＊ 国鉄現地職員が経費豊富、非常に有能、効率よく通関業務を遂行しており、94年度分も引き続いて担当したいとの強い意欲を持っている。

＊ Ｂ／ＡＢＢＡＳは船便数、せ設備、扱い量等いずれもイラン最大で、供与機材の荷揚げ通関に当たってもその利点を享受出来る。

＊ ヤズドへの距離IMAM KHOMEINI 港に比べて半分以下、道路事情にも詳しい。



NOTE 1. ABBREVIATION:

RB :RELAY RACK
TB :TOKENLESS TRANSMISSION EQUIPMENT
CTC (C) :CTC LOGIC BAY FOR CENTRAL OFFICE
CTC (F) :CTC LOGIC BAY FOR FIELD STATION
CTC TM:CTC SIGNAL CONTROL BOARD
CTC LT:CTC SIGNAL INDICATION BOARD

2. THE SYMBOL ▲ SHOWS THE FRONT SURFACE OF PANEL AND RACK.
3. THE LINE ——— SHOWS CABLE PIT.
4. THE LINE ——— SHOWS CABLE LADDER.
5. THE SYMBOL SHOWS VERTICAL CABLE LADDER CONNECTING BETWEEN THE CABLE PIT AND CABLE LADDER.
6. THE DISTANCES BETWEEN DEVICE AND WALL AND BETWEEN DEVICES SHALL BE ADJUSTED ACCORDING TO THE ARRANGEMENT OF FLOOR TILES.

TITLE:
TRAINING ROOM LAYOUT

附 属 資 料

① ミニッツ

附属資料 ① ミニッツ

THE MINUTES OF THE MEETING BETWEEN THE JAPANESE TECHNICAL CONSULTATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE ISLAMIC REPUBLIC OF IRAN ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR THE YAZD SIGNALLING TRAINING CENTER PROJECT

The Japanese Technical Consultation Team(hereinafter referred to "as the Team") organized by Japan International Cooperation Agency(hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr.KAZUSHIGE DAIKI visited the Islamic Republic of Iran from July 10th to 18th, 1995 and had a series of meetings with the Authorities of the Government of the Islamic Republic of Iran(hereinafter referred to as "the Iranian Authorities") on the Technical Cooperation for the Yazd Signalling Training Center Project in Iranian Islamic Republic Railways in the Islamic Republic of Iran(hereinafter referred to as "the Project") and on the future perspective of the Project.

As a result of the series of meetings, both parties agreed that the Project is being implemented as originally planned and in accordance with the objectives set out in the Record of Discussions signed on December 1st, 1993 and further agreed to report to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto for smooth implementation of the Project.

KAZUSHIGE DAIKI
Leader
Technical Consultation Team
Japan International
Cooperation Agency (JICA)
Japan

HAMID REZA MEHRAZMA
Deputy Managing Director
Manpower and training
Iranian Islamic Republic
Railways(IIRR)
The Islamic Republic of Iran

THE MINUTES
OF
THE JOINT COMMITTE MEETING
FOR
THE YAZD SIGNALLING TRAINING CENTER PROJECT

DATE:JULY 17 1995

VENUE: HEADQUARTERS IIRR

PRESENT:
IRANIAN SIDE
IIRR
MR.H.MEHRAZMA, DEPUTY MANAGING DIRECTOR.
MR.M.DADYAR, ASSISTANT DUPUTY MANAGING DIRECTOR
MR.H.SHAPOURI DIRECTOR GENERAL TTB
MR.M.VEYSEH DIRECTOR GENERAL S& C
MR.H.TALEBI DEPUTY DIRECTOR GENERAL TTB
MR.H.OYARHOUSSEINI DUPUTY DIRECTOR GENERAL TTB
MR.A.KARIMI COORDINATOR OF YSTC PROJECT TTB

JAPANESE SIDE
JICA TEAM
MR. K.DAIKI LEADER, MINISTRY OF TRANSPORT
MR. Y.SUETOMI, MINISTRY OF TRANSPORT
MR.H.TOISHI, JR CENTRAL
MR.H.UEEDA, JICA

MR.Y.MASAKI, FIRST SECRETARY EMBASSY OF JAPAN
MR.H.KANAZAWA SECOND SECRETARY EMBASSY OF JAPAN

YSTC TEAM
MR.Y.YAGUCHI CHIEF ADVISOR & SIGNAL ENGINEER
MR.M.YAZAWA MAINTENANCE OF SIGNAL ENGINEER
MR.K.AOKI COORDINATOR

The second Joint Committee meeting was called as above and Mr.H.Mehrazma, DMD, IIRR took chair on behalf of MD, IIRR . The meeting discussed and agreed as per attached.

LIST OF ATTACHMENT

1. DISCUSSIONS AT THE MEETING
2. PROGRESS REPORT
3. DISPATCH OF THE EXPERTS
4. LIST OF COUNTERPART PERSONNEL
5. LIST OF REFERENCE BOOKS
6. LIST OF PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT
7. LIST OF THE IIRR OFFICIAL RECEIVED BY JICA
8. DETAILED PROGRESS REPORT OF THE YSTC PROJECT

ATTACHMENT 1

DISCUSSIONS AT THE MEETING

1. Progress of the Project

1-1 The Iranian side and the Japanese side reviewed the progress of the Project since the first Joint Committee held on July 11, 1994 as per ATTACHMENT 2.

1-2 Both sides confirmed situation of the workshop, the office, and the machinery and equipment at the Project site. And they judged that the Project has been making relatively good progress owing to great efforts of the Iranian Authorities relevant to the Project.

1-3 Both sides found that the machinery and equipment provided by the Government of Japan was kept in good condition.
Both sides confirmed that continued care should be taken to protect the machinery and equipment from heat and dust.

2. Customs duty

2-1 The Japanese side appreciated the quick action of the IIRR to pay customs duty, required by the recent amendment of the Iranian law, for the machinery and equipment provided by the Government of Japan (portion financed in Japanese Fiscal Year 1994).

2-2 The Japanese side requested the action of the IIRR to procure the budget for the payment of customs duty for the machinery and equipment to be provided by the Government of Japan (portion financed in Japanese Fiscal Year 1995), which is scheduled to arrive at Bandar-Abbas approximately in January 1996.

3. Textbook

3-1 The Iranian side stated as follows;

1)To have received the Reference Books in English from the Japanese side, have decided to translate them into Persian language and have already arranged excellent translators.

2) To request the Japanese side to turn over the figures and tables of the reference books soonest possible.

3)To put priority in translating the English Teaching Materials into Persian whether to firstly compile the Text Books for the course or to complete the reference books.

4) Also to request the Japanese side to indicate the parts of the Reference Books which need urgent translation.

3-2 The Japanese side delivered additional English Teaching Materials to the Iranian side, and it stated that requested figures and tables . would be given in some form.

3-3 Both sides agreed to establish a sub-committee(Text Book Committee) under the Joint Committee for efficiently compiling the Persian text books to be used in the training courses. The Director-General of TTB nominated Mr.H.Oyarhossini as its head and other IIRR experts as the members.

4.The Course Program

4-1 Both sides agreed that the opening date of the training course be set on October 21, 1995.
Both sides agreed to make further efforts to achieve that date.

4-2 The both sides confirmed that the theoretical training be done in Tehran in principle and that the practical training in Yazd.

5. Counterpart(C/P) training in Japan

5-1 The Japanese side stated that three C/Ps would be received in Japan from January 1996 for a collective railway information course which will be almost similar as done so far, and a few C/Ps in F/Y 1996.

5-2 The Iranian side hoped that a few supervising officials of IIRR be accepted for visits to the training site of the Counterparts during their training in Japan so as to monitor the training and discuss its content with Japanese officials concerned.

6. Other matter

6-1 JICA will keep dispatching the Long and/or Short Term Experts as necessary till the end of the project period, November 1996. It will also keep posting the Coordinator till the end of the same period

6-2 The Japanese side stated that there are two important pillars to start the training course in October. They are compiling the Text Books and installing the machinery and equipment.
The Iranian side agreed to the Japanese view.

6-3 The Japanese side also stated that a JICA team will be dispatched approximately in May 1996 in order to evaluate the program and achievement of the Project.

ATTACHMENT 2

PROGRESS REPORT

1. Introduction to the Project.
The Islamic Republic of Iran intended to improve and bolster the capability of railway transport. In order to achieve this goal the country pledged to enhance the technical level of the staff in charge of OPERATION HANDLING, VEHCLE MAINTENANCE , TRAIN DISPATCHING, TRACK MAINTENANCE, SIGNAL MAINTENANCE etc., along with the efforts to expand the operation lines.

IIRR has an integrated training center in Teheran where they have conducted basic training to aim at this target. Furthermore IIRR planned to carry out more specified training at such places as Yazd (Signalling),Tabriz, Mashhad and Lorestan

IIRR has already completed a building for the training center at Yazd. In 1989 the Iranian Government requested the Japanese Government for technical cooperation to improve safety and efficiency of the Iranian Railways through fostering key signaling technicians at the Yazd Signaling Training Center.

2. Objective of the Project
The objective of the Project is shown in ANNEX1-1 of R/D signed on December 1st 1993 i.e.

" The objective of the Project is to provide theoretical and practical training to the technical staff engaged in signaling at the Islamic Iranian Republic Railways so that they can obtain expertise in the technology of maintenance and repair through the intensive training course at the Yazd Signaling Training Center".

3. Dispatch of Japanese Experts
Three Long Term Experts and four Short Term Experts have been dispatched as per ATTACHMENT 3; DISPATCH OF THE EXPERTS

4. List of Counterpart Personnel .
Six Counterparts have been appointed and posted as per Attachment 4; POSTING OF THE COUNTERPARTS.

5. Compilation of the teaching materials
The Japanese side has translated Japanese teaching materials into English as per ATTACHMENT 5. LIST OF THE REFERENCE BOOKS .

6. Provision of the technical Equipment.
The Japanese side has already provided the Technical Equipment of F/Y 1993(Interlocking Devices for C Station) which is now being installed at YSTC and the Technical Equipment for F/Y 1994 (Relay Interlocking Devices etc.,.) which has just being released from Bandar Abbas Customs Office. The containers of the equipment had been moved according to the Japanese Expert's advice, to under a shade to avoid the sun heat Their contents are as per ATTACHMENT 6.; LIST OF PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT .

7. Training in Japan
JICA received Iranian trainees ; One Counterpart and one IIRR Authority (DMD). The expenditure prepared by JICA from training of counterpart personnel budget as per ATTACHMENT 7.

8.Detail of progress report :
Detail of progress report as per ATTACHMENT 8

9 Dispatch of the survey teams
The Japanese side dispatched the survey teams as follows;

9-1 Preliminary Survey Team (26.10. 1991 - 5. 11:1991)
9-2 Technical survey Term (15. 11 1992 - 5. 12. 1992)
9-3 Implementation Survey Team (13, 2,1993 - 25. 2. 1993)
9-4 Planning & Consultation Team (4. 7. 1994 - 15. 7. 1994)

SCHEDULE OF TECHNOLOGY TRANSFER PROGRAM

ITEMS	CONTENT	1994	1995	1996
1. PREPARATION	TO SET UP THE ORGANIZATION FOR MANAGEMENT AND OPERATIONS OF THE PROJECT APPOINTMENT OF C/P	(3) (5)		
2. BASICS	TO MASTER BASICS OF SIGNALING TECHNOLOGY	(6)(8)		
3. ADVANCED	TO MASTER KNOWLEGE AND TECHNOLOGY FOR INSPECTION, CONTROL AND MAINTENANCE OF SIGNALING EQUIPMENT	(10)		(3)
4. INAUGURATION OF THE TRAINING COURSE	BASICS AND ADVANCED		(10)	
5. OTHERS				
· INSTALLATION OF THE EQUIPMENT			(4) (7)	(3)
· TRAINING C/P IN JAPAN		(10)		(1)
· DEVELOPMENT AND EDITING OF TEXTS		(6)		
· DISPATCH OF SHORT TERM EXPERTS	AS NECESSARY	(11)	(6)	

NOTE: A few conuntertparts will be recived in January 1997.

ATTACHMENT 3

DISPATCH OF THE EXPERTS

Long Term Experts

MR. Hirohiko Yoshida 4 Mar.1994- 28 Jun 1995
(Chief Advisor & Signal Engineer)

Mr. Yukinori Tomidokoro 4 Mar.1994- 6 Mar.1995
(Signaling Engineer)

Mr.Keijo Aoki 18 Feb.1994- 17 Feb 1996
(Coordinator)

Mr.Yoshiaki Yaguchi 21 Jun 1995- 20 Jun 1996
(Chief Advisor & Signal Engineer)

Mr. Masaru Yazawa 8 Jul 1995- 7 Jul 1996
(Maintenance of Signal Engineer)

Short Term Experts

Mr.Takao Shimazaki 17 Nov.1994- 6 Dec.1994
(CTC system)

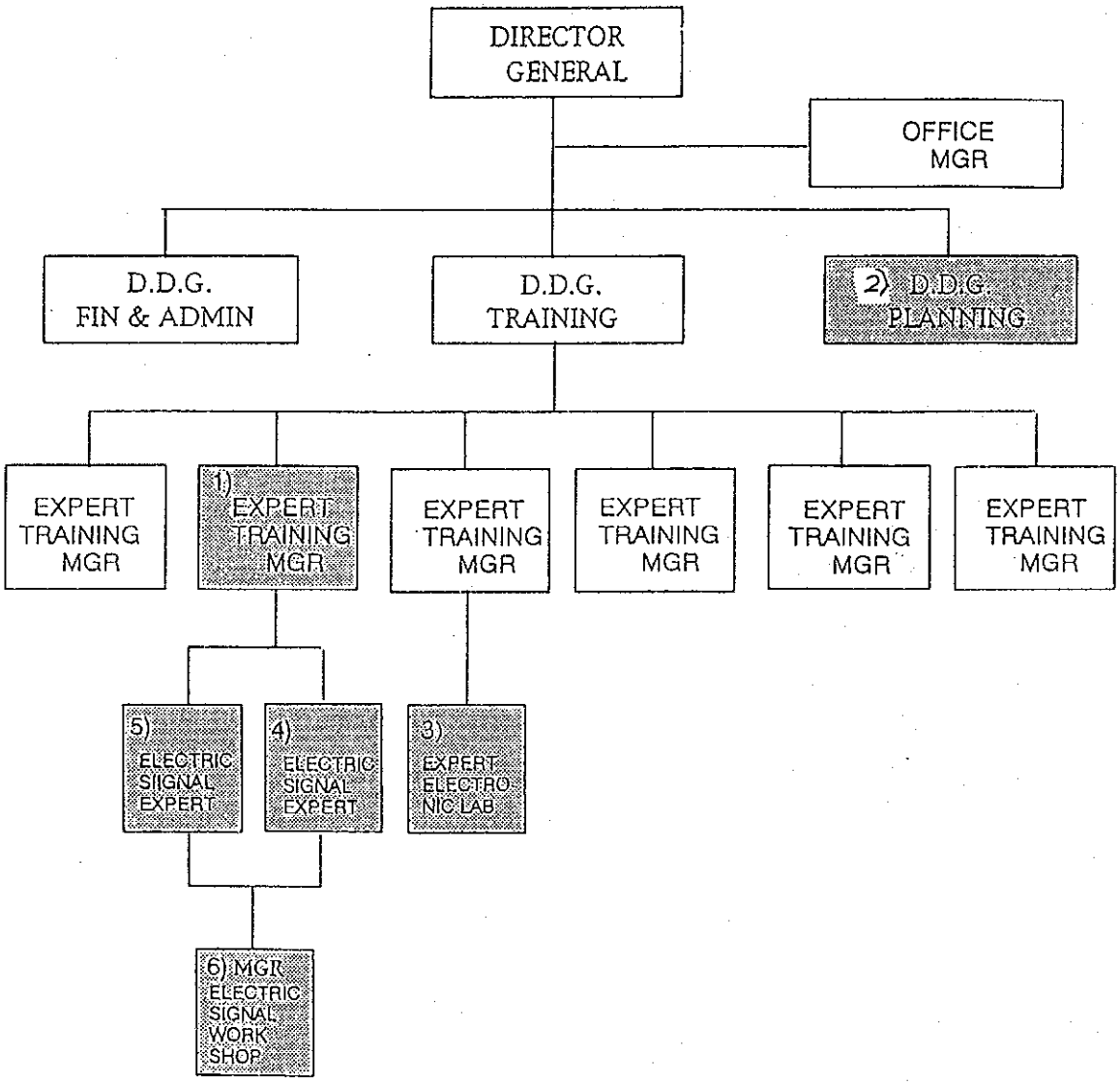
Mr. Yoshio Ohashi 28 Nov.1994-17 Dec.1994
(PRC system)

Mr.Yoshiaki Yaguchi 22 Feb.1995- 21 May 1995
(Interlocking)

Dr. Eiji Itakura 31 May 1995-27 Jun 1995
(Track Circuit)

ATTACHMENT 4

LIST OF COUNTERPART PERSONNEL



1) MR.A.. KARIMI

2) MR.H. OYAR.HOUSEINI

3)MR.S. NAJAFI

4)MR.A. ROSTAMI

5)MR.M. ABDOULLAHI

6)MR.G.. MAHSHIDI

REMARKS: COUNTERPARTS FOR YSTC PROJECT

ATTACHMENT 5

LIST OF REFERENCE BOOKS

1. BASICS-1
2. BASICS-2
3. CTC
4. PRC
5. INTERLOCKING DEVICES
6. TRACK CIRCUIT
7. POINT DEVICES
8. ATS & ATC
9. SIGNAL RELAY
10. BLOCK DEVICES
11. SIGNAL APPRATUS
12. OVERVIEW OF RAILWAY SIGNALS
13. THE RAILWAY SIGNAL

ATTACHMENT 6

LIST OF PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. F/Y1993

(1) RELAY INTERLOCKING

(2) CONTROL BOARD

(3) POWER SUPPLY EQUIPMENT

2. F/Y1994

(1) RELAY INTERLOCKING EQUIPMENT

(2) CTC EQUIPMENT

(3) TOKENLESS BLOCK EQUIPMENT

(4) ELECTRIC POINT MACHINE

(5) COLOR LIGHT SIGNAL

(6) TRACK CIRCUIT EQUIPMENT

(7) MODEL SIGNAL CONTROLER

(8) MODEL EQUIPMENT

ATTACHMENT 7

LIST OF THE IIRR OFFICIAL RECEIVED BY JICA

(1) MR. HAMID REZA MEHRAZMA DMD IIRR (27.10.1994-11.11.1994)

(2) MR. SAYED NAJAFI C/P IIRR (27.10.1994-22.11.1994)

ATTACHMENT 8

DETAILED PROGRESS REPORT OF THE YSTC PROJECT
JULY 17, 1995

HIGHLIGHT:"YSTC PROJECT HAS BEEN REVIEWED AFTER 18 MONTHS FROM ITS START"

One year has passed since the first Joint Committee set up the implementation plan for the YSTC project on July 11, 1994. The second Joint Committee has reviewed the progress of the project in accordance with the Position Report and the Technology Transfer Program dated July 11, 1994 as follows:

A. Position Report

1. The Management & Operations Scheme of the Project

(1) Monthly Meeting

Both sides confirmed that Monthly Meeting has been held and functioned as planned. Both sides also recognized the importance of keeping the minutes of the Monthly Meeting.

(2) Nomination of Counterparts(C/P)

There are six C/Ps working since Mr. Oyarhousseini was appointed on August 23, 1994 in addition to five C/Ps as of July 11, 1994.
The Iranian side confirmed that all C/Ps would stay in office throughout the cooperation period.

(3) Both sides confirmed that this clause does not exist due to numbering error.

(4) Visa and ID Card for Japanese Expert

In spite of the efforts of IIRR, 12-month visa cannot be issued to the Japanese Experts. Issuing 6-month visa continues to be the policy of the Iranian Foreign Ministry. However, the period of depositing the passport for renewal of the visa is usually 3 to 7 days, and with ID Card there would be no obstacle for Japanese Expert to travel within the territory of Iran.
ID Card of 12-month validity has been issued by the IIRR in response to the request of the Japanese side.

(5) Customs Procedure

With the efforts of the IIRR, smooth and duty-free release of official equipment has been achieved except several cases. The Iranian side suggested to avoid entrance in the period of Haj or on particular days such as Revolution Day.

(6) YSTC facilities in Yazd
Both sides confirmed that the YSTC workshop and the office are mostly in the course of setting-up as planned with the efforts of the IIRR, especially South East Division.
The Japanese side appreciated their efforts as well as those for hotel accommodations.

(7) YSTC Tehran Office
The Japanese side appreciated that the furniture given by the IIRR are satisfactory, however, stated that the local staffs are not enough to make clerical work effectively.
The Iranian side stated that the IIRR is prohibited to hire new people and making efforts to meet the request of the Japanese side by assigning suitable IIRR employees.
Both sides agreed that this issue should continue to be handled by the Coordinators of both sides.

2.Program and Implementation of the Training Courses
(1) Technology Transfer Program
This issue is reviewed in B. section of this report.

2) Development of Textbooks
Both sides confirmed that the textbooks for trainees are not yet developed and it is necessary to expedite the work of their development to start the training course in coming October as planned.
Both sides also confirmed that the Iranian side is responsible for their development but to expedite the work the Japanese side would help the Iranian side as far as possible.

B. Technology Transfer Program

(1) Purpose
The Iranian side expressed its anxiety about that the C/Ps have not yet achieved the level considered necessary due to insufficient technology transfer from the Japanese side, although the Iranian side highly appreciated the work conducted mainly by the Japanese Short Term Experts.
Both sides agreed to confirm the content of training made to the C/Ps.

In addition, the Iranian side requested a Short Term Expert in the field of training method, quoting the article 2 of the Master Plan annexed to the Record of Discussions signed on December 1, 1993. The Japanese side responded to consider the request within the budget and capacity of JICA.

(2) Stages of Technology Transfer
STAGE 1: March to June 1994
"Setting up organization"
This stage was accomplished as planned.

STAGE 2: July to August 1994
"Transfer of basic technology"
The Japanese Long Term Experts conducted the training of C/Ps as planned. However, the Iranian side stated that the C/Ps have still questions to be answered.
Both sides agreed that the two newly arrived Japanese Long Term Experts would answer their questions.

The Iranian side stated that the training of Interlocking made by a Japanese Long Term Expert in October 1994 was considered as basic technology for this type of interlocking system is currently used in Iran. The Japanese side regards that training as one of the intermediate course.

Both sides confirmed that the textbooks for trainees to be developed at this stage by the Iranian side have not yet be ready, and agreed to expedite their development by setting up a sub-committee with the assistance of the two newly arrived Japanese Long Term Experts.

STAGE 3: September to October 1994
"Installation of the first portion of Equipment in Yazd, which was financed in Japanese Fiscal Year 1993"

The equipment arrived at the port of Bandar-Abbas on August 17, 1994, and was released from the customs office on October 18, 1994.
The Japanese side highly appreciated the efforts of the IIRR for smooth customs release.
After the release, the equipment was transported to Yazd.

The installation of the equipment was conducted in April 1995 after the preparation of the workshop in Yazd.

Both sides confirmed that the training of non-connected inspections, connected inspections, interlocking tests and recovery from accidents and damages is still to be conducted.

Note of Stage 3: C/P training in Japan
The Japanese side received two IIRR personnel for the training in Japan, who are Mr.Mehrazma, DMD of IIRR, and Mr.Najafi, C/P.

STAGE 4: November 1994 to March 1995
"Transfer of intermediate technology"

*Unconducted part of training
The Japanese side conducted a part of planned training as follows;
-Interlocking devices by Mr.Yaguchi, short term expert, from February to May 1995 including practical training,
-Track circuit by Dr.Itakura, short term expert, in June 1995,
-CTC(Centralized Traffic Control) devices by Mr.Shimazaki, short term expert, from November to December 1994.

Both sides confirmed that the training of Switch machine has not yet conducted though it had been planned.
The Iranian side stressed the necessity of practical training of the above mentioned training.
Both sides agreed that the unconducted part of the training would be done within the capacity of Japanese Long Term Experts and the equipment to be installed in Yazd.

*Additional part of training
In response to the request of the Iranian side, additional training was conducted as follows;
-PRC(Programmed Route Control) system by Mr.Ohashi, short term expert, from November to December 1994.

*Level of training
The Iranian side commented that the issue of definition of the word of "master" would arise at the time of evaluation of this project.

Background explanation is as follows;
The Iranian side expressed great anxiety about the degree of achievement of C/Ps at this stage. Besides the above mentioned unconducted training, the Iranian side stated that the content of training did not match the word of "master", used in this stage.
It explained that this word corresponds to the achievement level at which analysis work can be done. But the Japanese side explained that the training were already programmed to match the word, and the equipment to be installed in Yazd was designed as such.

*Design of the equipment
The Iranian side also commented that their comment to the design of the equipment were not enough considered. But the Japanese side explained that the Iranian comments were well reflected to the design of the equipment within the limitation of JICA budget.
As a result, both sides agreed that it is important to make full use of the equipment provided by the Japanese side.

Both sides confirmed that the textbooks for trainees to be developed at this stage by the Iranian side have not yet be ready, and agreed to expedite their development by setting up a sub-committee with the assistance of the two newly arrived Japanese Long Term Experts.

STAGE 5: April to May 1995
"Installation of the second portion of Equipment in Yazd, which was financed in Japanese Fiscal Year 1994"

The equipment arrived at the port of Bandar-Abbas on April 29, 1995 and was released from the customs office on July 15, 1995.
The Japanese side highly appreciated the efforts of the IIRR for smooth customs release.
After the release, the equipment is being transported to Yazd.

The installation of the equipment will be conducted in this summer.

The Japanese side clarified the meaning of the words of "accidents and damages" used in this stage as troubles of signal related devices, and they do not mean train accident such as collision.

STAGE 6: June to July 1995
"Tune-up of the equipment in Yazd"

This stage can be done only after the completion of the stage 5.

Note of Stage 6: C/P training in Japan
The Japanese side explained that the originally planned reception of C/Ps in August-September period could not be possible. Instead, it proposed the reception of three C/Ps in the period of approximately January-March, 1996 to a collective training course.

The Japanese side explained that the number of ten C/Ps in total to be received in Japan, written in this Technology Transfer Program (stages 3, 6 and 8), is calculated on the basis of five C/Ps, the maximum number, per Japanese Long Term Experts.

The Iranian side requested reception of high ranking officials of the IIRR into Japan in addition to the C/Ps.
The Japanese side responded that officials other than C/Ps could be possible if recognized by JICA, but handled within the same reception budget as for C/Ps.
The Iranian side expressed its hope for more personnel of the IIRR to be received into Japan. The Japanese side took note of the Iranian hope.

STAGE 7 & 8: October 1995 to February 1997
"Start and continuing of training"

These two stages will be conducted as planned.

JICA